

わたしたちの  
ふるさと

# 東光寺

日野市立東光寺小学校  
開校30周年記念運営委員会



# 目次

## わたしたちのふるさと東光寺

垣内成剛

### 1 地名のおこり

- ① 「日野」の地名と日野宮神社 ..... 5
- ② 「東光寺」と「四谷」など ..... 6

### 2 大昔の東光寺

- ① ヒノクジラの化石発見 ..... 7
- ② 学校の下は、平安時代の住居跡 ..... 7

### 3 昔の東光寺

- ① 四谷の阿弥陀堂 ..... 8
- ② 多摩川と鮎 ..... 8
- ③ 日野宿と土方歳三 ..... 11
- ④ 日野用水と人々の暮らし ..... 12
- ⑤ 鉄道が開通する ..... 14
- ⑥ 東光寺大坂と古い道 ..... 15
- ⑦ 昔の子どもの遊び ..... 16

### 4 東光寺の昔話

- ① うなぎを食べない四谷の人々 ..... 17
- ② 神明さまのお告げ ..... 17
- ③ 栗をもって安産祈願 ..... 18
- ④ とうもろこしを食べない和田一族 ..... 18

### 5 今の東光寺

- ① 多摩川 ..... 19
- ② 多摩川の自然 ..... 19
- ③ 東光寺緑地とカタクリ ..... 21
- ④ 東光寺大根 ..... 22
- ⑤ 日野用水とよそう森堀 ..... 22
- ⑥ 東光寺の農業 ..... 23
- ⑦ 土地の区画整理が  
進み住宅が増えています ..... 24

### 【資料】

- 東光寺年表 ..... 25
- ご協力いただいた方々／  
東光寺の古い地図 ..... 27
- 日野町全図 ..... 28
- 参考にした本と資料 ..... 30
- 東光寺昔マップ ..... 31

### 副読本を使用する児童の皆さんに次のことをお願いします

- ・「わたしたちのふるさと東光寺」副読本で、東光寺の地域のことをどしどし勉強して、自分たちの住んでいる地域のことをよく知ってください。そして、地域のことを愛せる人になって下さい。
- ・この副読本は、地域の方々や先生方が、取材をしたり、資料を収集したり、それをまとめて、編集したものです。この資料を参考にして、東光寺・四谷のことを学習するきっかけにしてください。さらに自分で、図書館やふるさと博物館で調べたり、地域の方からお話を聞いたりして、東光寺・四谷のことをいっぱい発見してください。そして、自分で学んだり、発見したことを周りの人にも積極的に伝えてください。
- ・また、副読本として、全校の児童が、10年間使える冊数を作っていただきました。少しでも長持ちするように大切に副読本を使ってください。





昔の日野用水（昭和 29 年）



今日の日野用水（同じ地点から撮影）（平成 21 年）



日野駅から見た八丁田んぼ  
（右上に水車小屋が見える 昭和 28・29 年頃）



今日の日野駅からの風景（同じ地点から撮影）（平成 21 年）



日野宮神社社殿（昭和 40 年）



今日の日野宮神社社殿（平成 21 年）



用水で洗い物（昭和初期）



今の用水（平成 21 年）



## ① 四谷の阿弥陀堂

栄町1丁目の四谷新道沿いに4体の石仏が置かれた立派なお堂があります。お地蔵様が2体と庚申塔が2基です。この石仏はいったい、いつ、だれが、なんのためにつくったのでしょうか。

やさしい顔のお地蔵様、こい顔の庚申塔の仏様（青面金剛といいます）をよく見ると漢字がほってあります。お地蔵様は享保16年（1731）、庚申塔は宝暦7年（1757）、天保15年（1844）と、はっきりと書かれています。その他、日野四谷、念仏講中という字もみられます。また、このお堂のすぐ近くに阿弥陀堂という建物が、約260年前からありました。このあたりは四谷村の中心で、260年ほど前から念仏講があったことがわかります。阿弥陀堂は、四谷村の人々が念仏をとえたり、集会所として使っていたのです。このような集まりを念仏講とって、テレビや映画、新聞も本もないころの人々にとって、まちどおしい、楽しい行事だったのです。

村人のくらしは、朝から晩まで農業中心で、ほとんど変化のない毎日でした。そこで、年に何回か村人が集まったときに、お酒を飲んだり、食事をしたり、おしゃべりをして、夜を明かすことは、本当に楽しい一時だったのです。

この阿弥陀堂は、昭和35年にとりこわされました。そのあとに、四谷自治会館がたてられました。この自治会館も平成4年にこわされました。阿弥陀堂の3体の仏像は、日野宮神社にうつされ、今でも念仏講は日野宮神社で続けられています。このうちの1体が、うなぎ伝説と関係がある仏像で、両袖がうなぎそっくりに見えます。



日野宮神社の仏像



四谷の庚申塔（右2体は、お地蔵様）

## ② 多摩川と鮎

多摩川の流れには鯉・鮎・はや・鮎など多くの川魚がありますが、中流部である羽村市から府中市是政付近までの間は、水質や水の勢い、水量ともに鮎の育成に最適でした。このあたりの鮎は、骨がやわらかく、身がしまり、鮎独特の香りも高いため、昔から鮎の名産地として知られていました。

### 献上鮎と仙八ずし

江戸時代には幕府も多摩川中流域を御漁場に指定し、川からの収益に税金をかけ、江戸城へ鮎を上納させました。献上鮎は八月から十月にかけて五回に分け、合わせて



東光寺小のまわりには、昔ばなしがたくさん残っています。そのいくつかを紹介しましょう。

## ①うなぎを食べない四谷の人々

今日の日野市栄町の一部を昔は四谷といいます。多摩川に沿った四谷は水に恵まれ、土地も肥え、大昔から人々が住みついていた。

ある年、この多摩川が氾濫し、大水が出て、堤防があぶなくなりました。

村人は、土のうを積んで、一晩中見張っていましたが、水はふえる一方で危険はいよいよつのるばかりでした。そして、ついに土手に穴があき水がもれはじめました。村人は必死になって、穴を埋めようとしたのですが、もう人の力ではどうにもならなくなりました。

その時、どこからともなく、うなぎの大群が泳ぎつき、その穴へぎっしり入り込んで、水量が減るまで土手を守りました。

四谷の人々は、これこそ部落の鎮守様の、虚空蔵菩薩がお使いのうなぎに命じて、四谷村の人々を助けてくれたのだと思いました。



それ以来、四谷村の人々は、決してうなぎを食べないことにしたそうです。

## ②神明さまのお告げ

昔、東光寺部落と、その西の粟の須部落との間に、地境の争いが起きました。この二つの村が、多摩川と谷地川の近くにあったため、洪水のために地境が分からなくなったからです。村人は、いつまで争っていても仕方がないというので、神明さまのお告げをきくことにしました。お告げは、「暁の一番鳥が鳴いたとき、両方の馬を走らせて、勝った方の村の言い分を村境にするがよい。」とのことでした。



どちらの村も、その日にそなえて、いろいろ工夫をこらし、自分の方の馬が勝つことを願いました。

粟の須の人々は、一番立派な馬を選んで、たっぷり食べさせ、時を待ちました。ところが、東光寺では、馬を空腹にさせておいて、食糧のありかを先方に教えて

おけば、食べたい一心で速く走るだろうと考えました。

やがて、一番鳥が鳴き、二頭の馬は駆けはじめたが、粟の須の馬の勢いがよいのに比べ、東光寺の馬は、空腹に耐えかねてへたばってしまいました。

そのため、東光寺は、用水の取入口も、お茶屋の松も、元は東光寺分であったのに、粟の須にとられてしまったということです。



## ① 「日野」の地名と日野宮神社

私たちの住んでいる日野市の「日野」という地名は、どのようにしてできたのでしょうか。これは「飛火野」から「日野」になったという説が有力です。その他に3つの説があるので紹介します。

### 「飛火野説」

武蔵名勝図会(1823年にできた)という古い本による説です。日野台地の一部は、高倉野といわれ、そこは小高い丘だったので、のろし台(戦いのときの合図として、火をたいてけむりを上げる所)がおかれていました。「のろし」を上げる所を古くから飛火野ともいい、そこからこの地を「飛火野」、「火野」そして「日野」となったということです。

また皇国地誌(1880年編)によれば、日野の地を「古く昔は、多摩郡石津郷飛火野と呼ぶ。(略)和銅年中(奈良時代)さらに、日野本郷と改む」と書いてあります。

### 「日野宮説」と「日野氏説」

新編武蔵風土記稿(1830年完成)には、「日野宮起源説」と「日野氏起源説」の2つの説だけが書かれています。しかし、「されど二説とも正しき記録にあらざれば、その詳なることはしるべからず」とあるようにはっきりしません。



日野宮神社



## 「日野宮説」 = 日野の地名は日野宮神社から

四谷には、今もりっぱな石の鳥居のある日野宮神社があります。この神社は、平安時代の初め（890年頃）武蔵国の国司として来た日奉宗頼という人や、その孫の宗忠という人をまつた神社です。日奉宗頼は、国司をやめても京都に帰らず、この地に住みついて中心になって開発しました。そして、宗忠は、武蔵七党の「西党」を名のり、大きな力を持ち、その子孫は西党として長い間多摩地区一帯を繁栄させました。この子孫が建てた神社、「日の宮」から「日野」の地名が起こったと言われています。

## 「日野氏説」

1425年（室町時代）、当時朝廷に大きな力を持っていた藤原氏の流れをくむ日野氏の子孫、日野宮内資忠という人が、土淵の庄（のちの日野惣郷）に来たので、この地が日野になったということです。

なお、「日野」という地名が現われた最も古い文書は、八王子滝山城主であった北條氏照が、1586年（天正14年）に出した印判状で、市の文化財にもなっています。

## ② 「東光寺」と「四谷」など

### 「東光寺」

日奉宗忠（「日野宮説」参照）は、平安時代の中頃、今の七ツ塚古墳の近くにお城をきずき、同時に悪いことが起きないようにと、東北の方がくに東光寺というお寺を建てました。1500年の終わりごろ（室町時代後期）までそのお寺はありました。このお寺の名前から東光寺という地名になったと伝えられています。

### 「四谷」

1500年の中頃（室町時代）、当時「上屋敷」と呼ばれていたこの地に、山梨から天野・加藤・小島・宮原の四家が、移り住んだことから「四家」（四屋）「四谷」となったといわれています。

### 「日野新田」

1670年頃（江戸時代）、原野だった今の新東光寺から四谷にかけての土地を、切り開いて田畑にしました。人家も少なく、1800年初め頃（江戸時代後期）でも六戸だったそうです。また、たびたびの多摩川の洪水で、明治時代には、全ての農家は移転し、移転先から田畑に通ったとのこと。現在も「新田団地」として古い名まえが残っています。

### 「姥久保」

昔は、「姥窪池」と言われ、水源地でした。その水は、山下や仲井という集落に用水として引かれていました。

### 「新坂下」

昔の甲州街道は、日野駅東側から大坂上中正門前にぬける道でした。

昭和の初め今の道路ができた時、その西（三小付近）を新坂西、その下を新坂下と明記しました。



七ツ塚古墳



## ① ヒノクジラの化石発見

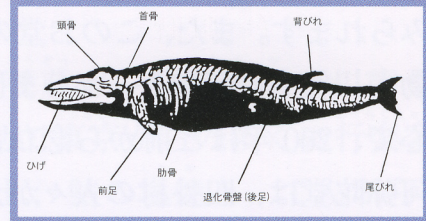
大昔、東光寺の学区は海だったことがはっきりわかりました。それは、栄町5丁目の成就院うらの多摩川の川底からクジラの化石が発見されたからです。1971年（昭和46年）11月16日のことです。近所の渡辺熙さんが見つけ、日野一中の先生や生徒たちによって三日がかりで掘り上げられました。その後、日野市ふるさと博物館にその一部が展示されました。「ヒノクジラ」と名づけられ日野市立中央図書館に展示されました。

うまっていた地層から推定すると、今から500万年～600万年前は多摩丘陵をのぞく日野市のほとんどが、海だったことがわかります。

なお、となりの昭島市でもほぼ完全な形でクジラの化石が発見されています。昭島で見つかったので、「アキシマクジラ」とよばれています。



ヒノクジラの化石（郷土資料館提供）



## ② 学校の下は平安時代の住居跡

1979年（昭和54年）6月21日（木）の新聞に、多摩版のトップ記事として、プール建設予定地に平安時代の住居跡発見の記事がのっていました。

地名から「栄町遺跡」と名付けられました。

この住居跡からは、おわんやつぼなどが大量に出土しました。学校では、遺跡見学会を開いたり、PTAでも専門家から土器や当時の様子を聞くなど説明会を開催したそうです。

### 七ツ塚古墳

東光寺上と呼ばれている所で大小7つの古墳が発見されました。昔はこの墓は、日奉氏の墓といわれていましたが、実は、古墳時代（3～8世紀頃）にこの地をおさめていた氏族の首長をほうむった墓だろうと思われています。

七ツ塚は、七つある所から出ていますが、以前はもっとたくさんあったようです。明治時代初期と昭和に入って、それぞれ一基ずつ調査され刀や鉄のやじり、その他に女性のはにわ、曲玉なども発見されています。

七ツ塚あたり一帯は、石器や土器の破片が散乱し、発掘調査によって縄文時代の住居跡が多数発見されています。



平安時代の住居跡